

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/12/03.

日米の政局を見ながら

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	先月に続き利下げ予想が優勢ではあるが 予想レンジ: 82.30 ~ 87.50 円	2-3
<u>NZドル/円</u>	➡	RBNZの金融政策に注目 予想レンジ: 65.20 ~ 69.20 円	4-5
<u>ランド/円</u>	↘	国内は売り材料山積 予想レンジ: 8.90 ~ 9.70 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



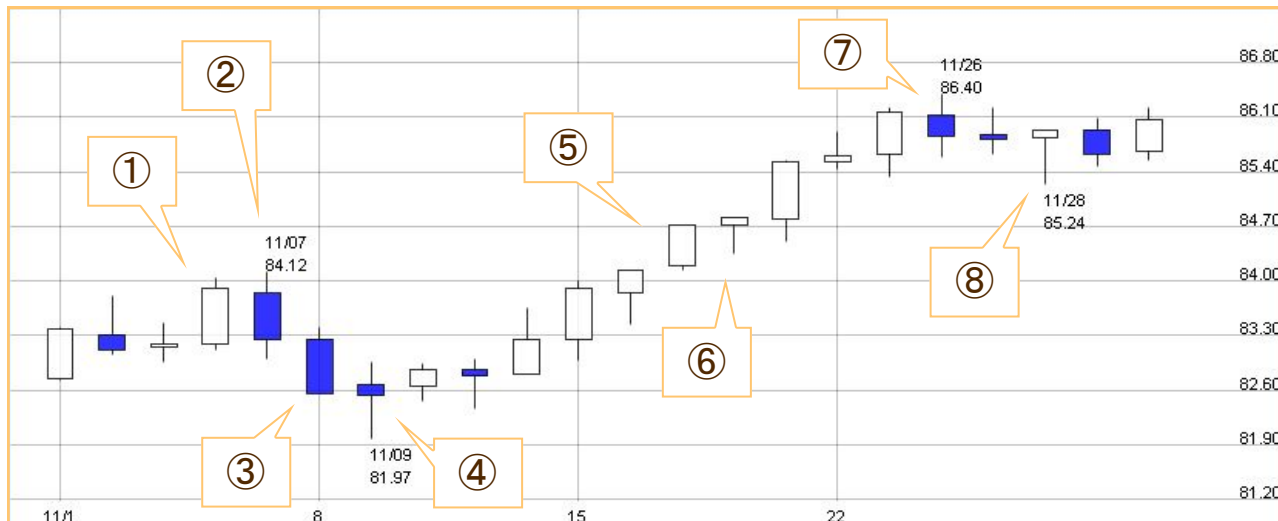
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD / JPY

豪ドル/円 11月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	82.74円	86.40円	81.97円	86.06円



- ① 6日、市場では0.25%利下げ予想がやや優勢となる中、豪準備銀行(RBA)は政策金利の据え置きを決定。声明文は「中国の成長は安定化した」「金融政策は当面適切と判断」等、前月と比べ楽観的な内容となり、これを受けて豪ドル/円は値を上げた。その後米大統領選にて一部でロムニー氏が優勢との報道をきっかけに米株が大幅に上昇。原油相場の上昇もあり、84.04円まで続伸した。
- ② 7日、米大統領選でオバマ氏の勝利が伝えられると、株高を背景に豪ドル/円は84.12円をつけた。しかし、選挙の結果、米議会の上・下院のねじれが解消されなかった事で「財政の崖」が再び懸念されると、NYダウ平均株価が一時360ドル超の下げを記録。これを嫌気して豪ドル/円は下落した。
- ③ 8日、豪10月新規雇用者数が+1.07万人と予想(+0.05万人)を上回り、失業率は5.4%(予想:5.5%)となった。これを受けて豪ドル/円は小幅高となるも、その後アジア株の軟調推移を受けて失速。NY市場にて米長期金利が急低下すると、ドル/円が急落して豪ドル/円も下げ幅を拡大した。
- ④ 9日、RBA四半期金融政策報告では、13年と14年の国内総生産(GDP)見通しを引き下げたが、豪ドル/円の下押しは限定的。その後、欧州連合(EU)高官が「12日のユーロ圏財務相会合でギリシャへの次回融資について最終決定する可能性は低い」との見解を示したことを受けてユーロ/円が下落すると、豪ドル/円は81.97円まで連れ安。欧州株の軟調推移も重石となった。
- ⑤ 19日、日本経済新聞が「自民党は衆院選の選挙公約に『日銀法改正の検討』を明記する方針を固めたようだ」と報じた事をきっかけに円売りが強まると、豪ドル/円は連れ高に。国際通貨基金(IMF)が報告書で「豪ドルを公式な準備通貨に認定へ検討する」とした事も上昇を支えた。
- ⑥ 20日、RBA議事録で「今後、更なる緩和が適切になる可能性もある」とした事を受けて追加利下げ観測が浮上。直後こそ豪ドル/円は弱含んだが、その反応は一時的であった。
- ⑦ 26日、日経平均株価の高寄りや、先月30日の日銀金融政策決定会合議事要旨で「白川総裁から共同文書の提案があった」などが明らかとなってドル/円が上昇した事で、豪ドル/円は4月2日以来となる86.40円まで上昇。ただ、スペインのカタルーニャ州で独立支持派が勝利した事が伝わり、同国情勢に対して先行き不安が広がると、リスク回避の動きが強まって下げに転じた。
- ⑧ 28日、米「財政の崖」問題に対する警戒感がくすぶる中、株安を背景に豪ドル/円は85.24円まで下落。ただその後、米共和党のペイナ下院議長やオバマ米大統領が同問題を楽観視している事が伝わると、NYダウ平均株価が上昇。これを受けて豪ドル/円は下げ幅を縮小した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

11月の豪ドル/円相場は81.97円～86.40円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.9%の上昇(豪ドル高・円安)となった。上旬は米大統領選にてオバマ大統領の再選が決まり、米国の財政の崖問題に対する不安からリスク回避の流れとなって豪ドル/円は弱含むも、14日の野田首相の解散示唆発言をきっかけに円売りが強まると、約7カ月ぶり高値水準まで上昇した。

12月の豪ドル/円相場は、まずはRBA理事会に注目したい。先月末に著名RBAウォッチャーが利下げを予想したこともあり、市場では利下げ予想が優勢となっている。とはいえ、先月の理事会の声明文で中国景気に対して楽観的な見方を示した事を理由に、政策金利を据え置きとの見方も根強い。今回は市場の意見が割れていることから、直後の市場は利下げで豪ドル売り、据え置きで豪ドル買いといった比較的素直な反応が予想される。同時に発表される声明文で、次回(来年2月)のRBA理事会に向けて緩和的スタンスを継続するのか、それとも利下げの効果を見極めるべく様子見姿勢を維持するのか注目されよう。

また、米国では「財政の崖」が迫っている。実質的な期限と言われている今月中旬までに与野党で何らかの合意に至らない場合、来年より実質的な増税と強制的な歳出削減が行われる。期限が迫るにつれ、合意困難との見方が強まればリスク回避の動きから豪ドル/円が売られる可能性がある一方、崖が回避されるとの見方が強まれば買われやすいと見る。同問題に関する要人発言には注意したい。

そのほか、本邦では衆議院選挙がある。選挙の結果を受けて自民・公明で過半数となれば安倍総裁が首相に返り咲く可能性が高い。その場合は日銀に対する追加金融緩和圧力が強まる事が予想され、円売りが続く可能性がある。本邦の選挙結果にも市場の関心が集まりそうだ。(川畑)

(予想レンジ: 82.30～87.50円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

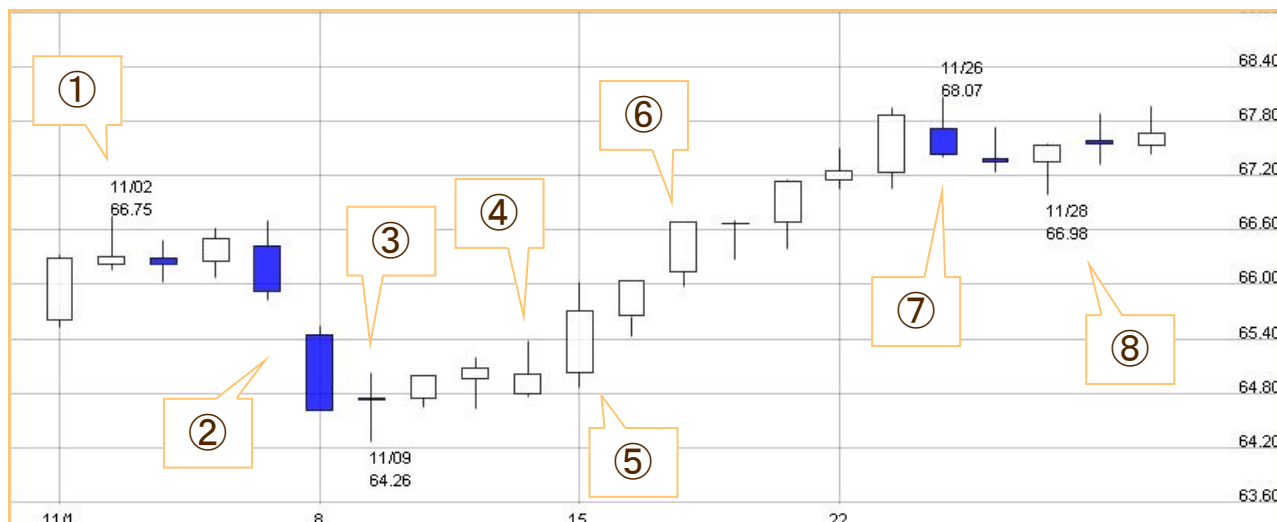
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
12/3(月)	10月豪小売売上高	12/9(日)	11月中国小売売上高
	11月米ISM製造業景況指数	12/10(月)	10月日貿易収支
12/4(火)	第3四半期豪經常収支	12/12(水)	米FOMC政策金利発表
	RBAキャシュターゲツト	12/13(木)	11月米小売売上高
12/5(水)	第3四半期豪GDP	12/14(金)	12月HSBCフラッシュ製造業PMI
	11月米ADP全国雇用者数		日銀短観
	11月米ISM非製造業景況指数	12/16(日)	日衆議院総選挙
12/6(木)	11月豪雇用統計	12/17(月)	12月米ニューヨーク連銀製造業景気指数
	欧州中銀金融政策発表	12/18(火)	RBA議事録
12/7(金)	11月米雇用統計	12/19(水)	11日日通関ベース貿易収支
	12月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	12/20(木)	日銀金融政策決定会合(19日～発表)
12/9(日)	11月中国消費者物価指数		第3四半期米GDP・確報値

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 11月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	65.61	68.07円	64.26円	67.67円



① 2日、米10月非農業部門雇用者数が17.1万人増と予想(12.5万人増)を上回り、前月分も上方修正(11.4万人増→14.8万人増)された他、失業率は事前予想通り7.9%となった。これを好感してドル/円が上昇すると、NZドル/円は66.75円まで連れて上昇。しかし、NYダウ平均株価が米大統領選を前に利益確定の売りに押されて下落すると、上げ幅を縮小した。

② 8日、NZ第3四半期失業率が7.3%(予想6.8%)と、1999年第1四半期以来の水準に悪化。これを嫌気してNZドル/円は前日終値から50銭近く急落してスタートした。その後NY市場では米長期金利が急低下すると、ドル/円がストップを巻き込んで急落。これに連れてNZドル/円は一段と値を下げた。

③ 9日、欧州連合(EU)高官が「12日のユーロ圏財務相会合でギリシャへの次回融資について最終決定する可能性は低い」との見解を示した。これを受けてユーロ/円が下落すると、NZドル/円は64.26円まで下落。欧州株の軟調推移も重石となった。

④ 14日、NZ第3四半期小売売上高が前期比-0.4%と予想(+0.4%)を大きく下回った。これを嫌気してNZドル/円は前日終値から約30銭下落してスタート。しかし、野田首相が衆議院解散を示唆した事をきっかけに円売りが強まると、NZドル/円は上昇した。

⑤ 15日、自民党の安倍総裁が日銀の金融政策について「インフレ目標達成の為に無制限に緩和していくべき」、「ゼロかマイナス金利にするぐらいにして貸し出しを高めてもらいたい」などと発言。これを受けて円売りが強まると、NZドル/円は連れて値を上げた。

⑥ 19日、ガザ侵攻の延期などを手掛かりにNYダウ平均株価が200ドル超の上昇を記録。日本経済新聞が「自民党は衆院選の選挙公約に『日銀法改正の検討』を明記する方針を固めたようだ」と報じた事をきっかけに円売りが強まり、NZドル/円は値を上げた。

⑦ 26日、日経平均株価の高寄り付きや、先月30日の日銀金融政策決定会合議事要旨で「白川総裁から共同文書の提案があった」などが明らかとなってドル/円が上昇した事で、NZドル/円は4月2日以来となる68.07円まで上昇。ただ、スペインのカタルーニャ州で独立支持派が勝利した事が伝わり、同国情勢に対して先行き不安が広がると、リスク回避の動きが強まって下げに転じた。

⑧ 28日、米「財政の崖」問題に対する警戒感がくすぶる中、株安を背景にNZドル/円は67.32円まで下落。ただその後、米共和党のペイナー下院議長やオバマ米大統領が同問題に対して楽観視している事が伝わると、NYダウ平均株価が上昇に転じたため、NZドル/円は下げ幅を縮小した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

今月のポイント

11月のNZドル/円相場は64.26円～68.07円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.1%の上昇(NZドル高・円安)となった。上旬は米大統領選に市場の関心が集まり、オバマ大統領の再選が決まると米国の財政の崖問題に対する不安からリスク回避の流れとなってNZドル/円は弱含んだ。NZ国内の経済指標の悪化もNZドル売りにつながった。しかし14日、野田首相の解散示唆発言をきっかけに円売りが優勢となると、NZドル/円はこの流れに乗って約7か月ぶり高値水準まで上昇した。

今月、NZでは金融政策の発表が予定されている。先月発表された第3四半期の失業率や小売売上高の悪化を理由に、ごく一部で利下げ観測が浮上しているが、市場では金利据え置き予想が主流となっている。予想通り据え置きとなる場合はその際に発表される声明文に注目であり、利下げまではいかなくとも利上げ開始時期(2013年半ば～後半)が先送りされるとの見方が強まればNZドル売りが優勢となろう。一方で足下の中国経済が持ち直している事から、足下の利下げ観測は行き過ぎと見る事も出来る。今後本格化するカンタベリー地区の震災復興需要もあり、現在の金融政策を維持するようならばNZドル/円に買いが入る事も考えられる。

米国では「財政の崖」が迫っており、実質的な期限とされる今月中旬までに与野党で合意に達する事が出来るか注目されよう。崖が回避されるとの楽観的ムードが漂えば株高を背景にNZドル高が予想されるが、回避困難との見方が強まればリスク回避の動きから売り圧力が強まる事も考えられる。その他引き続き、本邦の政局も手掛かり材料となりそうだ。(川畑)

(予想レンジ: 65.20～69.20円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

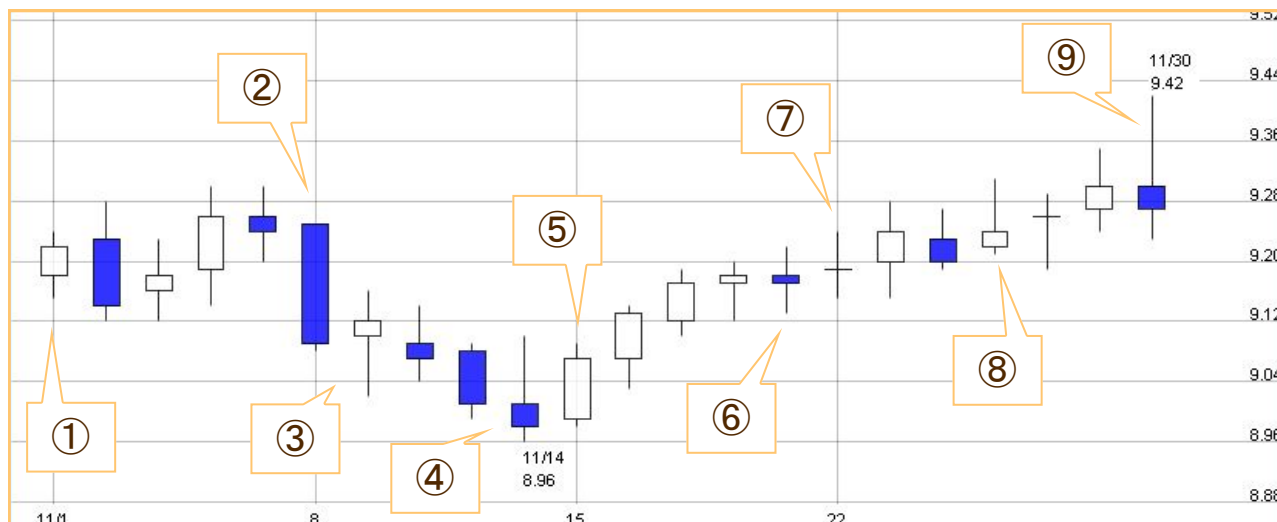
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
12/3(月)	11月米ISM製造業景況指数	12/12(水)	米FOMC政策金利発表
12/5(水)	11月米ADP全国雇用者数	12/13(木)	11月米小売売上高
	11月米ISM非製造業景況指数	12/14(金)	12月HSBCフラッシュ製造業PMI
	RBNZオフィシャル・キャッシュレート		日銀短観
12/6(木)	11月豪雇用統計	12/16(日)	日衆議院総選挙
	欧州中銀金融政策発表	12/17(月)	12月米ニューヨーク連銀製造業景気指数
12/7(金)	11月米雇用統計	12/18(火)	第3四半期NZ経常収支
	12月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	12/19(水)	11月日通関ベース貿易収支
12/9(日)	11月中国消費者物価指数		第3四半期NZGDP
	11月中国小売売上高	12/20(木)	日銀金融政策決定会合(19日～発表)
12/10(月)	第3四半期NZ製造業売上高		第3四半期米GDP・確報値
	10月日貿易収支		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

ランド/円 11月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	9.18円	9.42円	8.96円	9.27円



- ① 1日、マーカス南ア準備銀行(SARB)総裁が「南アフリカの利下げは自動的ではない」などと発言。これを受けてランド/円は上昇。その後南ア第3四半期失業率が25.5%と予想(25.0%)より弱い内容が伝わると小緩む場面が見られたが、欧米株の上昇を受けて再び値を上げた。
- ② 8日、NY市場にて米30年債の好調な入札を背景に米長期金利が急低下すると、ドル/円がストップを巻き込んで急落。これに連れてランド/円は大きく値を下げた。
- ③ 9日、欧州連合(EU)高官が「12日のユーロ圏財務相会合でギリシャへの次回融資について最終決定する可能性は低い」との見解を示したことを受けてユーロ/円が下落すると、ランド/円は9.02円まで下落。欧州株の軟調推移も重石となった。
- ④ 14日、野田首相が衆議院解散を示唆した事をきっかけに円売りが強まると、ランド/円は値を上げた。しかし、イスラエルがパレスチナのガザ地区を空爆したことで中東情勢の緊迫化すると、これを嫌気して欧米株が下落。ランド/円はこの影響を受けて大きく下落すると、8.96円の安値を付けた。
- ⑤ 15日、自民党の安倍総裁が日銀の金融政策について「インフレ目標達成の為に無制限に緩和していくべき」、「ゼロかマイナス金利にするぐらいにして貸し出しを高めてもらいたい」などと発言。これを受けて円売りが強まると、ランド/円は連れて値を上げた。
- ⑥ 21日、10月南ア消費者物価指数が前期比+5.6%と予想(+5.4%)を上回ったが、市場の反応は薄かった。
- ⑦ 22日、同国の小売売上が予想を下回った事やストライキの悪影響、欧州情勢に対する不安を背景にごく一部で利下げ観測が浮上する中、南ア準備銀行は政策金利の据え置きを発表。これを受けてランド/円は一時9.24円まで値を上げた。
- ⑧ 27日、南ア第3四半期国内総生産(GDP)が前期比年率+1.2%と予想(+1.5%)を下回った。これを受けてランド/円は小幅に値を下げた。
- ⑨ 30日、欧州株高を背景にランド/円は10月1日以来となる9.42円まで上昇。しかし、南ア10月貿易収支が212億ランドの赤字と予想(155億ランドの赤字)より赤字幅が拡大した事が嫌気され、9.23円まで下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今月のポイント

11月のランド/円相場は8.96円～9.42円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.0%の上昇(ランド高・円安)となった。上旬は米大統領選に市場の関心が集まり、オバマ大統領の再選が決まると米国の財政の崖問題に対する不安からリスク回避の流れとなってランド/円は弱含んだ。14日、野田首相の解散示唆発言をきっかけに円売りが優勢となると、ランド/円はこの流れに乗って値を上げるも、南ア10月貿易収支での赤字幅拡大を嫌気して上げ幅を縮小した。

南アフリカ国内を見ると、ランド売りの要因が多い。16～20日に行われる与党ANCでの総裁選に際し、産業界などからの利下げ圧力やストの拡大が見られればランド売り圧力となろう。また、同国のストの影響について、先月28日にムネミレSARB副総裁が「ストの影響はまだ出尽くしておらず、第4四半期のGDPはさらに弱含む可能性が高い」と発言。今後、ストが南ア経済に与える影響が懸念されそう。さらに、28日には11月貿易収支の発表が予定されているが、10月のそれは2009年1月以来の赤字幅となった。同国の貿易収支は今年2月以降赤字が続いており、実需面からもランド売り圧力が掛かりやすい点には注意したい。

また、米国の「財政の崖」も引き続き注目であり、崖回避に向けて楽観的な見方が浮上すれば株高を背景にランド/円買いが、また、回避困難との見方が強まれば、リスク回避の動きからランド売りの反応が予想される。この問題の実質的期限とされる今月中旬が近付くにつれ、取引材料としての重要性が高まると見る。その他、本邦の政局もまた手掛かり材料となろう。(川畑)

(予想レンジ:8.90～9.70円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
12/3(月)	11月米ISM製造業景況指数	12/12(水)	米FOMC政策金利発表
12/5(水)	11月米ADP全国雇用者数	12/13(木)	11月南ア生産者物価指数
	11月米ISM非製造業景況指数		11月米小売売上高
12/6(木)	第3四半期南ア経常収支	12/14(金)	日銀短観
	欧州中銀金融政策発表		12月HSBCフラッシュ製造業PMI
12/7(金)	11月米雇用統計	12/16(日)	日衆議院総選挙
	12月米シガン大消費者信頼感指数・速報値	12/17(月)	12月米ニューヨーク連銀製造業景気指数
12/9(日)	11月中国消費者物価指数	12/19(水)	11月日通関ベース貿易収支
	11月中国小売売上高	12/20(木)	日銀金融政策決定会合(19日～発表)
12/10(月)	10月日貿易収支		第3四半期米GDP・確報値
12/12(水)	11月南ア消費者物価指数	12/28(金)	11月南ア貿易収支

巻頭の特記事項を必ずお読みください。